

■ 7月14日(土)

時刻	柳川市周辺の動き	(株)ヤスナガの動き
05:15	災害警戒本部 設置	
06:30		○社長、出社
06:50		○部長、工場長、営業課長 出社 大雨の為、 <b>社員全員の自宅待機を決定</b> 各課長へ連絡
07:30	災害警戒本部を災害対策本部に切替。 堤防に土のうを積む等の対策を開始	自宅待機を <b>臨時休業に切替</b> 各課長に連絡
07:50	矢部川、沖端川 氾濫危険水位に達する  <b>柳川市全域に避難勧告発令</b>	
08:30		○社長、周辺状況を確認し、一時帰宅 ○部長、自宅待機の為、退社
08:50	沖端川流域の浸水拡大  <b>柳川市全域の避難勧告を避難指示発令に切替</b>  柳川市以外にも、みやま市、朝倉市、八女市、筑後市、うきは市の一部に避難指示発令  柳川市・三橋町中山地区の立花いこいの森北側にて、 <b>沖端川堤防決壊</b>	 <p>※堤防決壊場所から当社まで直線距離で250m</p> <p><b>会社に50cm程度の濁流が押し寄せる</b> <b>○部長、工場長、営業課長は、周辺住民数名と共に工場2階の会議室に緊急避難</b></p> <p>○社長、堤防決壊のサイレンで車で会社に向かうが周辺地区の<b>浸水の為、出社断念。</b> 自宅に戻るが、<b>浸水により自宅で孤立</b> 事務所内への浸水が始まる</p>
09:30	中山地区の1km上流のみやま市・瀬高町本郷地区にて、 <b>沖端川堤防決壊</b>	
13:20	九州地方整備局 柳川市・大和町六合を流れる矢部川の堤防が5.0m、支流である沖端川の高さ6mの堤防が15.0m決壊したと発表	 <p>流出するドラム缶 (7/14)</p>  <p>水没した 社屋横お地蔵さんの祠 (7/14)</p>
14:00		浸水がようやく引き始める ○社長、自宅から機械メーカー、主要取引先、保険会社へ連絡

時刻	柳川市周辺の動き	(株)ヤスナガの動き
15:35	<p>大型クレーン2台で矢部川の決壊箇所にコンクリート製のブロックを置く等の作業開始</p> <p>堤防決壊により <b>柳川市全域で2,863人が市内の小中学校や公民館等に避難</b></p> <p>中山地区では2階に避難した人々を消防署署員がゴムボートにて次々に救出</p> <p>特に避難先となった中山小学校は、周囲と行き来できない孤立状態。 警察と消防が出動して109名を救助し、柳川市民会館へと移動</p>	 <p>川同然となった 社屋近辺の道路 (7/14)</p>  <p>水没した工場 (7/14)</p>
18:00	 <p>三橋公民館に316人が避難 (7/14)</p>	<p>浸水がほぼ収まり、消防関係による安全確認開始</p> <p>○<b>社長、出社</b> この時点でも浸水は、深いところで80cm程度</p>
18:30	<p>柳川市内の矢部川からの流れ込みが収まる</p>	
19:00	 <p>住民を安全な場所へ誘導する消防署員 (7/14)</p>	<p>○社長、ひざ下程度の浸水はあったが、工場2階の会議室から避難場所を事務所2階へ移設</p> <p>○<b>おにぎりを準備</b></p> <p>○営業課長、自宅の被害確認のため退社</p>
20:00		<p>事務所前の道路の中央線がようやく見え始める</p>
21:00		<p>○ほとんど浸水が収まり、<b>社長、工場長、退社</b> <b>自宅が半壊した部長、社員1名他、周辺住民の計10名程度が事務所2階に宿泊</b></p>
23:00	<p>福祉センターサンブリッジに避難していた40人を陸上自衛隊がボートにて救助 三橋庁舎へと移動</p> <p><b>柳川市の避難民すべての孤立が解消</b></p>	

■ 7月15日(日)

柳川市三橋町で農業用水路に転落した男性一人が発見され、死亡を確認、柳川市で唯一の犠牲者であった。

八女市星野村と上陽町の一部の地域で、土砂崩れにより道路が寸断、孤立したが、陸上自衛隊の飛行部隊が、15時30分ごろから上陽町の住民を、また17時50分ごろから星野村の住民を、近くの小学校の校庭に避難させた。